



今年退職します！

都立産技高専 吉田喜一

昨日(3月16日)は私の最終講義でした。高専における研究と教育―加工精度研究とものつくり教育―と題して90分、実演を含めて話をさせていただきました。100人近くの学生、教職員、卒業生、友人・知人、学生の親に聴講していただきました。

私は日暮里で生まれ育ちました。中学3年の夏父親が病死して高校は無理かなと思いましたが、定時制高校に通えば良いかなと思っていました。私だけでなく、大学などというのは最初から考えられない貧乏な地域環境でした。数学や理科は好きでしたが私は本当は文系人間です。文学や演劇に憧れていました。社会科も好きでした。普通高校、文系大学というルートは考えられませんでした。

早く自立して親を楽にさせたいと職業高校に通うのが自然の成り行きでした。ところが近くに航空高専ができたということで、母親は3年我慢するのでも我慢するのも変わらないからとすすめられ受けました。縁あって機械工学科に入りました。一般科目の先生はそうそうたる先生が高専にみえました。文学では増淵恒吉先生、草部典夫先生という大変有名な先生(吉田精一先生にも知り合うことができました)の教えを受けることができました。語学や歴史や科学史も大変有名な先生に教わることができました。それに比べて専門の先生は言い方は悪いですが、レベルが低いことは学生からもわかりました。

上級学年になって民間企業から見えた先生方

に企業の実際と技術の現状を教わり、こんなに面白い分野なのだと思うようになり工学や技術の勉強に目覚めました。いろいろありましたが就職は通産省に決めました。重工業局・重工業課技術班というところでした。上司は今沖縄県知事の仲井真さんでした。技術導入、技術輸出の審査に関わりました。外資法、外為法等を勉強しました。外国技術が日本に入ると、日本経済にどのような影響がでるかを分析する仕事でした。法律の勉強も大変面白く経済学の勉強もしました。大変やりがいがあり楽しい仕事でした。

ところが高専の卒業研究の指導教授から高専の助手で戻ってこないかとのご連絡を頂きました。悩みましたが翌年高専に戻ることにしました。それから42年間高専にお世話になりました。

この間都立大学に1年から入学しました。当時の都立大は昼夜開講制のB類といって主として夜間ですが、昼間でも自由に授業を受けられる制度でした。むしろ夜しか授業がない科目もあり、一部の学生は苦労していました。大学の1部、2部はほとんど先生が違います。都立大の同じ有名教授が昼も夜も教えるという制度でした。23才で入学して28歳で卒業しました。B類は高専と同様に5年制でした。

博士論文は千葉大学でお世話になりました。私の学会発表を注意深く聞いていただいた、これも有名な先生からもうそろそろ論文をまとめたらどうかと言われお世話になりました。卒オの時(1989年)でした。1993年には州立マサチューセツ大学に在外研修することができました。これも大変良い経験ができました。

高専発足から49年ですが、そのうち47年高専にお世話になりました。来年度は若干の非常勤講師を頼まれていますので、もう少し南千住に通うことになりました。

なおOB、OGからの要請で4月28日(土)午後16時最終講義を行う予定です。



衰退する商店街と 活性化のあり方を考える ②

こんにちは。南千住5丁目・メガネのサトウ4代目です。

今回は、先月の続きのお話です。活性化に向けた対策がいろいろ行われているのに、なかなか良い方に向かわない要因を探ると、私は商店街の土地の「利用者」と「所有者」の関係に問題があるのではないかと考えています。

例えば、商店街活性化を阻むものに、「一部の店の努力不足」が挙げられます。小さな眼鏡店を営んでいる私が指摘するのはいささか心苦しいのですが、どこの商店街に行っても必ずと言っていいほど、「え…この店、誰が買いに行くの?」と思わずにはいられないような、古くて薄暗く、価格や品揃えにも魅力のない、活気を失った店があります。商店街の中にこうした店が存在することは、やる気のある店にとつては非常にマイナスです。商店街の賑わいというのは、個々の店それぞれが一所懸命努力して、それぞれのお客様に来店して頂き、結果として商店街の通行量が増えていくことの積み重ねに他ならないからです。同様なものとして、「空き店舗」や「空き地のまま放置された土地」、「単なる住宅と化した区画」の存在が挙げられます。これらもまた、商店街の通行量を減らす元凶であり、活性化に向けた対策に水を差すことにつながっています。

そもそも、商店街の区画にテナントとして入居している事業者、つまり土地の「利用者」ならば、先月ご紹介したような家賃が土地の「所有者」に対して発生するわけですから、自ずと

店の売り上げや利益に対して問題意識を持つものなのです。そこで一所懸命商売をしないはずがありません。そして、努力してもそれでも及ばず、利益を出せないのなら、赤字が増える前に一定のところで見切りを付けて撤退し、自然と商店街の新陳代謝が進むこととなります。このようなことは、全てがテナントのみで構成されたショッピングモール(身近な例では、La Laテラス南千住)で普通に行われていることです。

しかし、もしも土地の「利用者」と「所有者」が同一ならば、どうでしょうか?少なくとも家賃は発生しないのですから、そこまであくせく努力しなくても、そこまで店に投資して改装などしなくても…ということには、ならないでしょうか?

■「太陽グラス」入荷しました■
5月21日の朝、東京で大変珍しい「金環日食」が見られるのをご存じでしょうか?目を傷めず安全に美しく観察できる「太陽グラス(ガラス製)」を当店で限定数販売しております。一個¥500のサービスマン価格です。追加入荷はありませんので売切次第終了です。今すぐご用命下さい!

【以下、来月号に続きます。】

【消費生活アドバイザー 佐藤 祐一郎】

◆メガネのサトウ◆

南千住5丁目43の13【ユツ通り】

TEL 03(3806)4930

★休業日のごあんない(不定休です)★
3月:25(日) ※先月号でお知らせした休業日から、変更になりました。ご注意ください。

4月:8(日)、16(金)、27(火)

★営業時間のごあんない★
平日(月~金):AM 9時30分~PM 7時

※開店時刻変更:4月3日(火)は、ひる12時から営業いたします。
土・日・祝日:AM 10時30分~PM 7時

